



B型の農業班や支援員が丹精込めて育てたサツマイモ、“ウイズ金時”の芋掘りに参加してもらいました。最初はあまり乗り気ではなかった利用者さんも、いざ芋掘りが始まると、楽しそうに掘り起こしていました(*'▽')

大きな芋を見つけると、とても嬉しそうにされていました。

掘った芋は、後日おやつ作りで、さつま芋の茶巾にして美味しく頂きました。



ウイズ通信

NO.8号
令和2年10月

年間目標

「できる事を増やそう」

月間スローガン

「うがい・手洗いをしよう」

そろそろ紅葉の季節ですね。日本には四季がありますが、年々秋が短くなり、突然冬の寒さが訪れるようになってきた気がします。短い秋を満喫したいですね。



今月のおやつ作りでは、芋掘りで獲れた“ウイズ金時”を使って、さつま芋の茶巾絞りを作りました。

さつま芋の皮むきやマッシュは初めての方が多かったようですが、潰してしまえば、ラップに牛乳と砂糖を混ぜ、ラップで絞るだけと、超簡単。素朴な味が好評で、おかわり続出の逸品でした。



今月の給食



麦ごはん
肉団子煮
野菜のゆず風味
胡麻和え
みそ汁 ふりかけ



ご飯 みそ汁
秋刀魚みりん焼き
ひじき煮
ポテトサラダ
酢物 フルーツ



おにぎり
きつねうどん
玉子焼き
漬物 佃煮



ご飯 デザート
豚肉りんごソース焼き
千切大根炒め
じゃこ豆 じゃが汁



今月のお誕生日

10月13日
山田友哉さん
10月25日
中村晴香さん
10月29日
古田雄一朗さん

《研修報告》

研修名：令和2年度福祉サービス苦情解決研修会

日時：令和2年10月12日(月)

研修受講者：坂部 恭子

この研修では、クレーム対応や再発防止の改善に求められる事例分析のための思考法を身に着けるとともに、クレーム対応における個人対応力及び組織対応力向上のポイントを理解し、今後のサービスの質の向上及び事業者段階における苦情解決の体制整備を目的として開催された研修会です。

苦情はサービスとしての期待値と現実のズレによって発生しやすく、期待していたクオリティやサービスが期待外れになると、相手方が知らせてくださるようとする「サイン」です。苦情相談の対応の「原則と心構え」として、1.相手によって変わらない公平な対応 2.迅速な対応 3.必要な情報開示 4.申し出て頂いた事に感謝の気持ちで 5.申し出をしやすい環境づくり 6.放置せず、たらいまわしにせず、責任ある対応 7.個人情報保護 8.報告連絡相談を行い、情報の共有化 9.サービス改善につなげる 10.記録の徹底と事後確認 となります。

普段より利用者さんやご家族の方とのコミュニケーションを図り、苦情に繋がってしまう前に対応することが必要です。また、話をしやすい環境づくりと、関係性を築いていくことが重要であることを理解し、今後の対応に繋げていければと思います。

研修名：福祉職員キャリアパス対応生涯研修<中堅職員編>

日時：令和2年10月21日(水)～10月22日(木)

研修受講者：西畑 二三代

中堅職員とは会社組織の中において、ある程度の業務経験を積み、現場の中心となって働く職員のことを「中堅職員」と呼びます。入社からどの程度の年数で中堅職員と呼ばれるようになるのかは、業種や職種、企業によって異なるもの。一般的には「新人」「若手」と呼ばれる入社1～3年目の社員や職員と、役職付きの管理職の間に位置する職員、つまり入社3～4年日以降で役職のない職員のことを中堅職員と呼ぶことが多いです。また役割としては現場での業務進行をサポートしつつ一人前に仕事ができるように指導、育成していくのは主に中堅職員の役割となります。私はこの施設に入社してから3年6か月が経ちました。

今までの経験はとても貴重なもので先輩職員や利用者さんから学ぶことも多く、今回の研修に参加して更に今の自分が中堅職員の立場であることを考えさせられます。2日間の研修でしたが自分にとっては大変、勉強になり学んだ事を職場で活用していくように努力をしていきます。

研修名：高次脳機能障害の地域支援ネットワーク研修会

日時：令和2年10月24日(土)

研修受講者：露峰 祐希

高次脳機能障害は、外見からは障害がわかりにくく「見えない障害」といわれ、まだまだその障害が認知されていないことが多い現状です。また、生まれつきの障害ではなく中途障害であるため、受障前にはそれぞれの立場や役割、生活があり、それが受障によって突然大きく変化してしまうため、障害を受け入れがたく自己理解が進まないことが少なくありません。高次脳機能障害の原因疾患は脳血管性障害、脳外傷、低酸素脳症、脳腫瘍、脳炎などがあり、主な症状として失語、失行（運動障害はないが、ある動作をしようとしても行えない）、失認（感覚障害はないが、見ているものや聞いていること、触っているものがわからない）、記憶障害、注意・集中の障害、遂行機能障害、社会的行動障害などがあります。高次脳機能障害の方の就労支援として支援者がすべきことは、知識として障害を知り、支援者として障害特性を理解するところから始まります。その上で現状の事実を明らかにし、本人、家族、職場などいろいろな立場から見た状況を確認していきます。大切なのはご本人の意思であり、今後どのようにしていきたいかを確認し、その希望に向かって段階を踏んでゆっくと進めていくことです。支援者としてそのためにできること、やらなければならないことを考え、実践していくことが重要だと学びました。